SONY

3-216-919-02 (1)

デジタル一眼レフカメラ取扱説明書

はじめにお読みください

α700

DSLR-A700

本書と**別冊の「デジタル一眼レフカメラ取扱説明書 活用編・困ったときは」**をよくお読みのうえ製品をお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告 電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、人身への危害や火災などの財産への損害を与えることがあります。

「活用編・困ったときは」の3ページと176ページから179ページに、製品を安全にお使いいただくための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。あわせてよくお読みください。

■『α』オフィシャルサイト
http://www.sony.co.jp/DSLR/

デジタル一眼レフカメラの最新サポート情報（製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法、アクセサリー互換情報など）は下記のホームページから。
『α』専用サポートサイト
http://www.sony.co.jp/DSLR/support/

■ 使用上での不明な点や技術的なご質問

ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスク

● ナビダイヤル
……………………0570-00-0770
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

● 携帯電話・PHSでのご利用は
……………………0466-38-0231
（ナビダイヤルが使用できない場合はこちらをご利用ください）

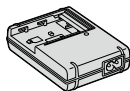
受付時間：
月〜金曜日：午前9時〜午後8時
土、日曜日、祝日：午前9時〜午後5時

この説明書は、古紙70%以上の再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan

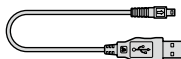
付属品を確認する

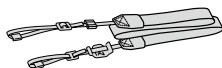
万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。
(　)内は個数

- バッテリーチャージャー BC-VM10（1）

- 電源コード(1)

- リチャージャブルバッテリーパック NP-FM500H（1）

- ワイヤレスリモートコマンダー（リモコン）（1）

- USBケーブル(1)

- ビデオケーブル(1)

- ショルダーストラップ（アイピースカバー、リモートコマンダーグリップ付き）(1)

- ボディキャップ(1)(本機に装着)

- アクセサリーシューキャップ(1)(本機に装着)
- アイカップ(1)(本機に装着)
- CD-ROM（αアプリケーションソフトウェア）(1)
- デジタル一眼レフカメラ取扱説明書 はじめにお読みください (本書)(1)
- デジタル一眼レフカメラ取扱説明書 活用編・困ったときは(1)
- 保証書(1)

取扱説明書の構成

本書

まずは準備をして、簡単に撮影しよう！

本機を使うための準備と、基本的な撮影・再生の方法を説明しています。

付属品を確認する……2
1 バッテリーを準備する……4
2 レンズを取り付ける……6
3 メモリーカード（別売）を入れる……8
4 電源を入れ、時計を合わせる……10
5 簡単に撮る（オート撮影）……12
撮影可能枚数……13
構えかた……13
手ブレ補正について……14
ピント合わせ……15
フラッシュ撮影するには……16
視度を調整するには……17
6 画像を見る/削除する……18

別冊「活用編・困ったときは」

少し慣れたら、本機の機能を使いこなそう！

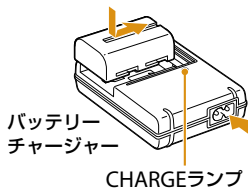
- お好みの設定で撮影する→撮影機能の説明
- お好みの設定で再生する→再生機能の説明
- メニューを使って、さまざまな撮影/再生を楽しむ→メニュー機能

さらに、パソコンやプリンターとつないで楽しもう！

- 画像をパソコンに取り込んで活用→パソコンを使う
- 本機をプリンターに直接つないでプリント→静止画をプリントする

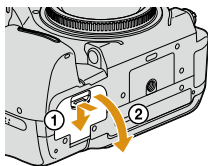
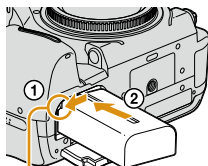
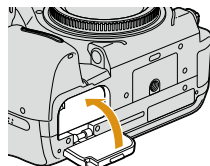
1 バッテリーを準備する

❶ バッテリーを入れる

カチッと音がするまで軽く押す。

点灯：充電中
消灯：充電終了(**実用充電**)
そのまま約1時間充電を続けると、若干長く
バッテリーを使うことができます(**満充電**)。

- バッテリーチャージャーは、お手近なコンセントにつないでお使いください。
- 充電が完了してCHARGEランプが消えても電源からは遮断されません。使用中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。
- 充電が終わったら、バッテリーチャージャーをコンセントから抜き、バッテリーをバッテリーチャージャーから取り出してください。
- 表は、バッテリー（付属)を使い切ってから、温度25℃の環境下で充電したときの時間です。使用状況や環境によっては、長くかかります。

満充電	実用充電
235分	175分

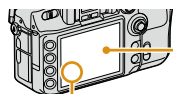
❹ 充電したバッテリーを入れる。

バッテリーカバーオープンレバーを押し、バッテリーカバーを開ける。

バッテリーの端でロックレバーを押しながら入れ、バッテリーがロックされるまで押し込む。

閉じる。

バッテリーに関するご注意

バッテリーはNP-FM500Hをご使用ください。NP-FM55H、NP-FM50、NP-FM30は使用できないのでご注意ください。

コンセントの電源で本機を使うときは

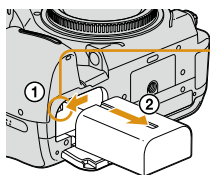
ACアダプター /チャージャー AC-VQ900AM（別売）を使うと、コンセントにつないで使うことができます→*別冊「活用編・困ったときは」164ページ*。

バッテリーの残量を確認するときは

POWERスイッチを「ON」側にずらして電源を入れ、液晶モニターで確認する。バッテリー残量を%で表します。

- 使用状況や環境によっては、正しく表示されません。

残量						「電池がなくなりました」
	多 → 少					撮影できません

バッテリーを取り出すときは

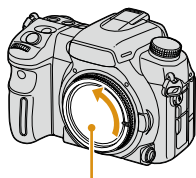
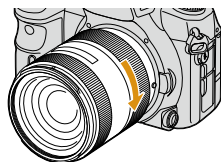
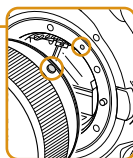
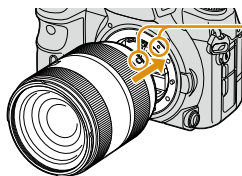
ロックレバーをずらし、バッテリーが落下しないように注意しながら引き出す。電源が切れていることを確認してから取り出してください。

海外で使うときは

バッテリーチャージャーやACアダプター /チャージャー AC-VQ900AM（別売）は全世界（AC100V 〜 240V・50/60Hz）で使えます。ただし、地域によっては壁のコンセントに差し込むための変換プラグアダプターが必要になる場合があります。あらかじめ旅行代理店などでおたずねのうえ、ご用意ください。

コンセントの形状例	主に北米	主にヨーロッパなど
変換プラグアダプター	不要	

- **電子式変圧器（トラベルコンバーター）は故障の原因となるので使わないでください。**

2 レンズを取り付ける

❶ 本機のボディキャップとレンズの後キャップをはずす。

- **本機の内部にほこりや水滴が入らないよう、充分注意してください。**
  ほこりなどが入ったた場合は、[クリーニングモード]（123ページ）を実行し、市販のブロアーで清掃してください。

❷ レンズを取り付ける。

レンズと本機の2つのオレンジ色の点を合わせてはめ込む。

レンズを軽く本機に押し付けながら、「カチッ」と音がするまで矢印の方向にゆっくり回す。

- レンズを取り付けるときは、レンズ取りはずしボタンを押さないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。
- フラッシュを使わずに撮影する場合は、画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。取り付けかたは、レンズの取扱説明書をご覧ください。

レンズを取りはずすときは

レンズ取りはずしボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取りはずす。

- 取りはずした後は、本機側・レンズ側ともキャップを付けて保管してください。

レンズ交換の際に、カメラ内にほこりが入らないように！

カメラ内にゴミやほこりが入ってイメージセンサー（フィルムの役割を果す部分）表面に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやほこりが画像に写り込むことがあります。

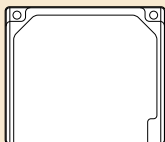
本機はアンチダスト機能によりゴミやほこりが付きにくくなっておりますが、レンズの取り付け/取りはずしを行う際には下記の点にご注意ください。

- ほこりの多い場所でのレンズ交換は避ける。
- カメラを保管するときは、必ずレンズまたはボディキャップを取り付ける。
- ボディキャップを取り付けるときは、先にキャップのほこりを落としてからカメラに取り付ける。

万一ゴミやほこりが入ってしまったときは、🔧セットアップメニューで[クリーニングモード]を実行し、市販のブロアーでイメージセンサーの清掃をする（→*別冊「活用編・困ったときは」123ページ*）。それでも取れないときは、ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスク（裏表紙）にお問い合わせください。

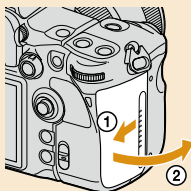
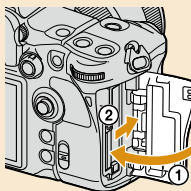
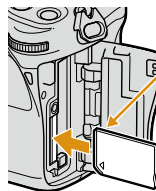
3 メモリーカード(別売)を入れる

本機で使用できるメモリーカードについて

“メモリースティック デュオ”

コンパクトフラッシュカード/
マイクロドライブ

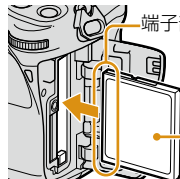
本機ではメモリーカードとして、“メモリースティック デュオ”、コンパクトフラッシュカード(CFカード)、またはマイクロドライブが使用できます。

- メモリーカードは、本機でフォーマットしてからお使いください。本来の性能を出せないことがあります。→*別冊「活用編・困ったときは」113ページ*
- メモリーカードについて→*別冊「活用編・困ったときは」160ページ*

メモリーカードを入れる

メモリーカードカバーを開ける。

“メモリースティック デュオ”

端子面

「カチッ」と音がするまで奥に差し込む。

CFカードまたはマイクロドライブ

端子部

おもて面

端子部(小さい穴が並んでいる面)から差し込む。

正しくない向き

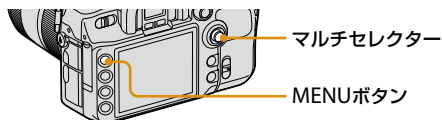
端子部

端子部

閉じる。

- カバーを開けるとき、指をはさまないようご注意ください。
- メモリーカードの中央をまっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
- メモリーカードの挿入方向には充分注意してください。誤って挿入した場合は、故障の原因となります。

“メモリースティック デュオ”で撮影するときは

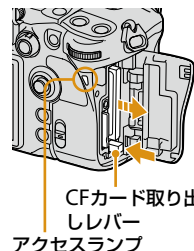
🔧セットアップメニューの[メモリーカード切り換え]を[メモリースティック]にする必要があります。電源を入れたあと、下記の手順に従って変更してください。

1 MENUボタンを押す。

2 マルチセレクターを使って変更する。

右方向に押して、🔧→[2]まで移動して、中央を押す。

上方向に押して、[メモリーカード切り換え]を[メモリースティック]にして、中央を押す。

3 MENUボタンを押して、メニュー表示を消す。

メモリーカードを取り出すときは

1 メモリーカードカバーを開ける。

2 **“メモリースティックデュオ”：**

“メモリースティックデュオ”を1度押す。

CFカード/マイクロドライブ：

CFカード取り出しレバーを中に押し込む。

- 長時間使用した直後のメモリーカードは熱くなっていますので、ご注意ください。

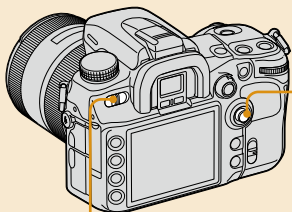
アクセスランプ点灯中は

絶対にメモリーカードを取り出したり、バッテリーを抜いたり、電源を切らないでください。データが壊れることがあります。

CFカード/マイクロドライブについて

動作確認は行っておりますが、すべてのCFカード/マイクロドライブの動作を保証するものではありませんのでご了承ください。

- マイクロドライブは、CompactFlash Type IIに準拠した小型、軽量のハードディスクドライブです。CFカード/マイクロドライブについて→*別冊「活用編・困ったときは」161ページ*

4 電源を入れ、時計を合わせる

❶ POWERスイッチを矢印の方向にずらし、「ON」にする。

❷ マルチセレクターで、日時を合わせる。

マルチセレクターを動かす向きは▲/▼/◀/▶で表します。

▲：上に押す
▼：下に押す
◀：左に押す
▶：右に押す

中央を押して決定

1 ［実行］が選ばれていることを確認し、中央を押す。

- あとで設定する場合は、▼で［キャンセル］を選んでから中央を押してください。

2 ◀/▶で設定する項目を選び、▲/▼で数値を設定する。

3 2の手順を繰り返して、すべて設定する。

- ［年/月/日］は年月日の並び順です。並び順は▲/▼で変更できます。

4 中央を押す。

5 ［実行］が選ばれていることを確認し、中央を押す。

- 日時合わせを中止するには、MENUボタンを押す。

日時設定をやり直すときは

別冊「活用編・困ったときは」の119ページをご覧ください。

セットアップメニューで[日時設定]を選び、手順❷の**2** ～ **5**を行う。

電源を入れたときのご注意

時計合わせをしないと、電源を入れるたびに「日付/時刻を設定してください」というメッセージが表示されます。

電源を切るときは

POWERスイッチを矢印の方向にずらし、「OFF」にする。レンズキャップを付けてください。レンズをはずしたあとは、ボディキャップを付けて保管してください。

パワーセーブ（操作しないでいるとほぼ電力オフに近い状態になります）

約5秒以上何も操作をしないと、液晶モニターの撮影情報画面が消えます。また約3分以上操作をしないと、省電力設定になり、ほぼ電源オフに近い状態になります（パワーセーブ）。シャッターボタンの半押しなど、本機を操作すれば、パワーセーブが解除されます。

- 上記の時間（お買い上げ時の設定は5秒/3分）は変更することもできます。→*別冊「活用編・困ったときは」118ページ*

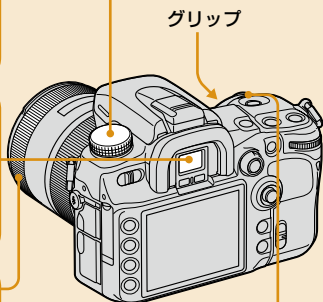
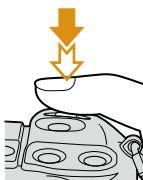
5 簡単に撮る(オート撮影)

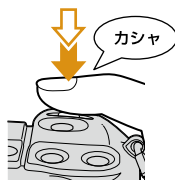
「AUTO」(オート撮影)では、本機の主な機能が、一時的に自動設定になります。カメラまかせで気軽に撮影したいときに便利です。「AUTO」でも、希望の設定に変更することができます。

1 モードダイヤルを「AUTO」にする。

2 グリップを握って、ファインダーをのぞく。

(11個のセンサー)と重なっているものにピントが合います。

3 ズームレンズの場合は、ズームリングを回してから構図を決める。

4 シャッターボタンで撮影する。

フォーカス表示
(ピントの状態をお知らせします(15ページ)。)

ピント合わせに使われたセンサー
(ピントの合っている位置が、一瞬赤く表示されます。)

- 撮影前の画像は液晶モニターには表示されません。ファインダーをのぞいて撮影してください。
- 撮影後、液晶モニターに撮影画像が2秒間表示されます。表示時間の変更もできます。
  →*別冊「活用編・困ったときは」109ページ*
- 記録中はアクセスランプが点灯しますので、メモリーカードを取り出したり、電源を切らないでください。

撮影可能枚数

メモリーカードを入れてPOWERスイッチを「ON」にすると、液晶モニターに、撮影可能枚数（現在の設定で撮影を続けると、あと何枚撮影できるか）が表示されます。

画面表示については→*別冊「活用編・困ったときは」17ページ*

- 1枚のメモリーカードに記録できる枚数は、メモリーカードの容量、本機で設定された画像サイズおよび画質によって異なります。→*別冊「活用編・困ったときは」21ページ*
- 「0」が黄色く点滅したときは、メモリーカードの容量がいっぱいです。メモリーカードを交換するか、メモリーカード内の画像を削除してください（8、18ページ）。
- 画像のデータ量は被写体によって異なるため、撮影状況によっては、撮影後に撮影可能枚数が変わらない場合もあります。

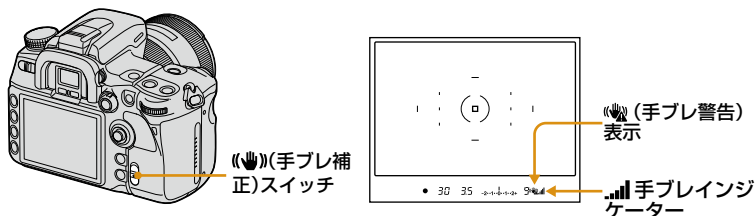
構えかた

カメラが動くとブレた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。手ブレ補正機能をオンにして使うことをおすすめします（14ページ）。

- 右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側を持って支えます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。
- 暗い場所でフラッシュを使わずに撮影する場合や、マクロ撮影または望遠レンズで撮影する場合は、本機の手ブレ補正機能では補正しきれないほどの手ブレが起こりやすくなります。手ブレ補正機能をオフにして、三脚などにカメラを固定して撮影することをおすすめします。

手ブレ補正について

1 ((手))(手ブレ補正)スイッチが「ON」になっていることを確認する。

2 シャッターボタンを半押ししてから、深く押し込んで撮影する。

手ブレインジケーター

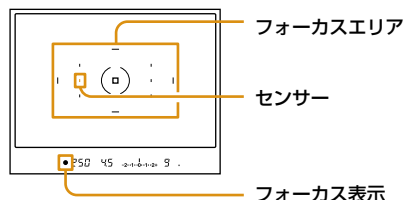
手ブレ補正がオンのときは必ず点灯します。点灯する表示の数が多いほど、本機の揺れが大きいことを表します(最大5つ)。手ブレ補正がオフのときは点灯しません。

(手ブレ警告)表示

手ブレ補正のオン/オフにかかわらず点滅します。シャッタースピードや焦点距離から判断した手ブレ写真になる可能性を表します。点滅したときは手ブレの恐れがあるため、(手ブレ補正)スイッチを「ON」にするか、フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。

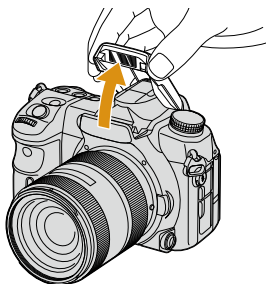
- POWERスイッチを「ON」にした直後やカメラを構えた直後、シャッターボタンを半押しせずに一気に押し込んだときは、手ブレ補正の効果が得られにくいことがあります。手ブレインジケーターの点灯数が減るのを待ってから、ゆっくりシャッターボタンを押し込んでください。
- 以下の場合は手ブレ補正の効果が得られにくいので、三脚の使用をおすすめします。
  - 近距離撮影
  - 被写体を追いながらの流し撮り撮影
  - 夜景撮影などシャッタースピードが1/4秒より長い場合
- 三脚使用時に手ブレ補正をオンにしていると、まれに誤補正する場合があります。三脚使用時には、手ブレ補正をオフにすることをおすすめします。
- 本機の手ブレ補正機能は、シャッタースピードで約2.5 ～ 4段の補正効果を発揮します。

ピント合わせ

フォーカスエリアの中には、ピントを合わせるためのセンサーが11個あります。
シャッターボタンを半押しすると、ピントが合っている部分のセンサーが一瞬赤く点灯して、どこにピントが合っているかをお知らせします。

フォーカス表示

グリップを握ってファインダーをのぞくか、シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、ファインダー内のフォーカス表示がその状態をお知らせします。

フォーカス表示	状況
●点灯	ピントが合って固定されています。撮影できます。
(●) 点灯	ピントが合っています。被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。撮影できます。
( ) 点灯	ピント合わせの途中で、シャッターは切れません。
●点滅	ピントが合わず、シャッターは切れません。 • お使いのレンズの最短撮影距離よりも近いものにはピントが合いません。撮りたいものに近づきすぎていないか、確認してください。 • ●の点滅中でもシャッターが切れるようにすることもできます。 *→別冊「活用編・困ったときは」99ページ*

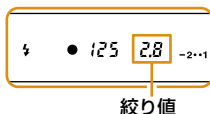
フラッシュ撮影するには

内蔵フラッシュを手で上げてください。内蔵フラッシュが上がっているとき、「AUTO」(オート撮影)では、光量が足りないと判断した場合に自動的に発光します。
フラッシュを発光させないときは、内蔵フラッシュを手で下げてください。

- フラッシュ発光部をつかんで本機を持たないでください。
- 必ず発光させたいときは、フラッシュモードを ϟ(強制発光)にしてください。→*別冊「活用編・困ったときは」69ページ*

ファインダー内の ϟ(フラッシュ)表示について

ϟ 点滅:フラッシュが充電中です。
点滅しているときは、シャッターは切れません。

ϟ 点灯:フラッシュの充電が完了しました。フラッシュ撮影ができます。

フラッシュ光の届く距離(フラッシュ調光距離)

内蔵フラッシュによる調光距離(適正露出の得られる範囲)は、絞り値とISO感度によって異なります。下記の表は、オート撮影でISO感度が[AUTO]のときのおおよその調光距離です。
ISO感度→*別冊「活用編・困ったときは」61ページ*

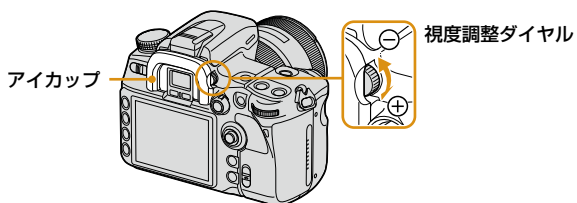
- 本機の内蔵フラッシュは、レンズ表記上16 mm以上の焦点距離の画角をカバーします。

絞り値	調光距離
F2.8	2〜12 m
F4	1.4〜8.6 m
F5.6	1〜6 m

内蔵フラッシュ使用時の注意

内蔵フラッシュで撮影する場合は、フラッシュ光がレンズでさえぎられて、写真の下部に影ができることがあります。以下の点に気を付けて撮影してください。

- 被写体から1 m以上離れて撮影してください。
- レンズフードは取りはずしてください。

視度を調整するには

ファインダー内の画面表示がはっきり見えるように、視力に合わせて視度調整ダイヤルを調節してください。

- 遠視の場合は＋方向へ、近視の場合は－方向へ回してください。アイカップをはずすと回す方向がダイヤルに表示されています。→*別冊「活用編・困ったときは」41ページ*
- 本機を明るいところに向けると、視度が合わせやすくなります。

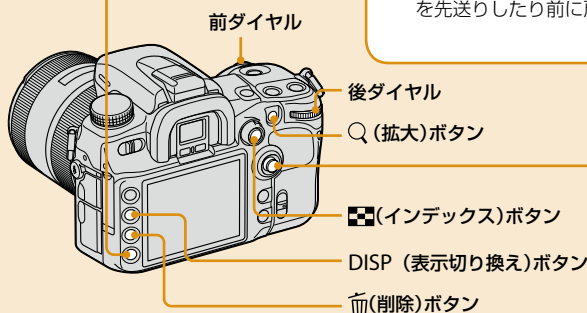
6 画像を見る/削除する

画像を見るには

1 ▶(再生)ボタンを押す。

2 マルチセレクターの◀/▶で画像を選ぶ。

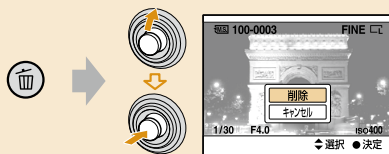
- 前ダイヤルまたは後ダイヤルを回しても、画像を先送りしたり前に戻したりできます。

前ダイヤル
後ダイヤル
(拡大)ボタン
(インデックス)ボタン
DISP (表示切り換え)ボタン
(削除)ボタン

撮影モードに戻るには

- もう一度▶(再生)ボタンを押す。
- シャッターボタンを半押しする。

画像を削除するには

1 削除したい画像を表示して (削除)ボタンを押す。

2 ▲で[削除]を選び、中央を押す。

削除を中止するには

[キャンセル]を選び、中央を押す。

画像を見ているとき（再生中）は、以下の操作もできます。

- DISP（表示切り換え）ボタンで再生画像の表示を切り換える
- ▦（インデックス）ボタンで画像の一覧を見る。
- 🔍（拡大）ボタンで画像の一部を拡大する。

→*別冊「活用編・困ったときは」80、81、83ページ*